

## 平成 29 年度第 2 回高知県産業振興計画フォローアップ委員会水産業部会 議事概要

- 1 日時：平成 30 年 1 月 18 日（木） 14：00～16：00
- 2 場所：水産会館
- 3 出席：部会員 10 名中、7 名が出席
- 4 議事：
  - (1) 第 3 期産業振興計画 ver. 2 <水産業分野>の平成 29 年度の進捗状況等について
    - ① 各産業分野で掲げた 4 年後の目標達成に向けた確認
    - ② 平成 29 年度の進捗状況等
  - (2) 第 3 期産業振興計画<水産業分野>の平成 30 年度の改定のポイント（案）について

議事 (1) (2) について、県から説明し、意見交換を行った。(主な意見は下記のとおり)  
議事については、すべて了承された。

### 5 意見交換概要

- (1) 第 3 期産業振興計画 ver. 2 <水産業分野>の平成 29 年度の進捗状況等について  
(山本部会員)

応援の店の取組については、登録店舗数や取引額が増えて成果がでておりすばらしい。  
施策を進めていく中で課題も見えてきていると思うがどのように認識しているか。

(宮本水産振興部副部長（水産流通課長）

後で改定のポイントでも説明するが、応援の店の店舗数は 777 店舗と今年度目標の 800 店舗を達成見込みである一方、実取引店舗数は 40%台となっているため、これをいかにあげていくのかという点が一つ。

次に、応援の店のニーズに対して県内事業者が価格、品質、物流面でどう対応していくのかという点。1対1で対応できないものを産地側が複数で対応し要望に応えるシステムができないかということを考えている。

最後に、高鮮度の取組を定置網主体で進めているが、これをひろげて産地全体の品質を上げることで、最終的には市場流通、市場外流通のバランスをとりながら、高知県全体の魚の付加価値を上げていくのが目標。

(山本部会員)

県外から漁業者になりたいといって移住してくる人の動機はどのようなものが多いか。  
(岩崎漁業振興課長)

漁業による収入や漁村での生活よりも海や釣りが好きという人が多い。

(森岡部会員)

新規就業者は目標 50 名に対し、1 月から 9 月の実績は 30 名ということですが、これは県外からということか。また、どういった人をターゲットにどのように担い手を確保していこうとしているのか。

(岩崎漁業振興課長)

内訳としては県外からの UI ターンや地元で転職をされた方を含めて 30 名となっている。年齢は 30 代から 40 代の方が多いが、50 代の方でも移住されて就業された方もいるので、漁業への就業を希望される方を幅広く受け入れしていきたいと考えている。

(谷脇水産振興部部長)

今年度は現時点の 30 名中 14 名が県外から来ていただいている。今年度、移住促進センターができ、高知求人ネットというものができ全国に求人情報を発信できるようになった。一次産業の求人も対象となり、先ほど説明のあった漁村のライフスタイルの提案や定置網漁業など事業者単位の求人も乗せられるようになった。これから漁業指導所などが皆様に活用してもらおうようお声かけをさせていただく。全国に発信できるツールができたのでこれを活用して就業者を確保していきたい。

(2) 第 3 期産業振興計画<水産業分野>の平成 30 年度の改定のポイント (案) について

(森岡部会員)

10 年前位は高知のクロマグロは、奄美などに比べて成長が悪く、他県への種苗供給のための中間育成の場としてのイメージであったが、高知県でのクロマグロ養殖は採算が成り立つようになったのか。

(竹内水産振興部副部長)

現在、高知県では大月町で 4 企業が年間 1,500 トンほどの養殖クロマグロを出荷しており、生産量は全国 3 位となっている。現在は採算性の問題はない。

(山本部会員)

クロマグロ種苗生産の取組は評価できる。クロマグロの種苗生産ではどれくらいの尾数を生産すれば採算に合うようになるのか。

(竹内水産振興部副部長)

採算性を確保するには天然と遜色ない品質のものを作り一定の販売単価で売ることと、歩留まりを向上させることが必要。

以上